

精神保健福祉ソーシャルワーク実習指導

[講義・演習] 第3学年 後期 選択 1単位

《履修上の留意事項》この科目を履修するものは、合わせて精神保健福祉ソーシャルワーク実習も必ず履修すること。

《担当者名》 橋本 菊次郎 hashimoto-kiku@hoku-iryo-u.ac.jp 奥田かおり 鈴木 和 向谷地 生良

【概要】

精神障害者やその生活のしづらさ、精神保健福祉援助の知識と技術について個別指導及び集団指導を通して実践的に学ぶ。

【学修目標】

1. 実習の意義と概要を説明できる
2. 精神障害者の置かれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解できる
3. 精神保健福祉援助に係る知識と技術を理解し、実践できる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	科目の概要、実習に関するスケジュールの確認をする。 実習、実習指導における個別指導と集団指導の意義について理解する。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
2	精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解	精神保健福祉、精神医療の現状と精神保健福祉士の役割について理解する。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
3	精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術の理解	精神保健福祉士の実践現場（領域）について理解する。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
4	精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解	精神科病院の仕組みと求められる精神保健福祉士の役割について理解する。	山村哲（特別講師） 向谷地、橋本、奥田、鈴木
5	精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解	精神科診療所（クリニック・デイケア）の仕組みと求められる精神保健福祉士の役割について理解する。	藤澤綾（特別講師） 向谷地、橋本、奥田、鈴木
6	精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解	地域事業所（障害者総合支援法 障害福祉サービス事業）の仕組みと求められる精神保健福祉士の役割について理解する。	近藤健志（特別講師） 向谷地、橋本、奥田、鈴木
7	精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解	当事者および精神保健福祉士の支援について学ぶ	池松麻穂（特別講師） 向谷地、橋本、奥田、鈴木
8	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務の理解及び実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解	精神保健福祉士に求められる職業倫理について理解する。また倫理綱領を基に守秘義務についてについて理解する。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
9	「実習日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解	実習日誌およびプロセスレコードの書き方について理解し、作成することができる。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
10	実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する理解	事前学習 実習施設の理解（根拠法、施設の役割等）を深め、示すことができる。 実習施設がある地域に関する情報を収集し、地域について理解を深め、示すことができる（地域アセスメント）。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
11) 12	見学実習（地域事業所）	地域事業所の実習配属先への見学（体験）実習 実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等を理解する。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
13	見学実習（医療機関）	医療機関の実習配属先への見学（体験）学習	向谷地、橋本、奥田、鈴木

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
14		実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等を理解する。	木
15	見学実習（地域事業所）内容のまとめ	見学実習（地域事業所）について、グループ内で報告、共有し、実習までの事前学習内容等について理解する。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
16	見学実習（医療機関）内容のまとめ	見学実習（医療機関）について、グループ内で報告、共有し、実習までの事前学習内容等について理解する。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
17	実習計画書の作成	ソーシャルワーク実習の振り返りをし、所定の書式にまとめる。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
18	実習計画書の作成	見学実習（地域事業所）を踏まえ、実習計画書の作成をする。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
19	実習計画書の作成	見学実習（医療機関）を踏まえ、実習計画書の作成をする。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
20	実習前オリエンテーション	実習に向けた全体オリエンテーションから実習中に關する注意事項について知る。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
21	実習打ち合わせ	実習生、実習担当教員、地域事業所実習の実習指導担当者との三者で実習課題について検討する。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
22	実習打ち合わせ	実習生、実習担当教員、医療機関実習指導担当者との三者で実習課題について検討する。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
23	実習（12日間） （学生の帰校日）	実習生との面接、グループでの実習を振り返り、実習の進捗状況等の確認を行う。 ジレンマ体験について理解を深め、自分の考えを述べる事ができる。	向谷地、橋本、奥田、鈴木

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業参画態度（30%）、特別講師、見学実習等各種レポート（70%）

【教科書】

北海道医療大学看護福祉学部福祉マネジメント学科『社会福祉実習要綱』

【参考書】

その都度紹介する。

【備考】

本科目及び「精神保健福祉ソーシャルワーク実習指導」（4年次前期）を履修することにより、精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目「精神保健福祉援助実習指導」を履修したことになる。

【学修の準備】

特別講師等、毎回の授業内容を確認し、内容にそって事前学習、レポート作成等を課す。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2,1,3,4,5

【欠席等の扱いについて】

基本的に欠席は認めず、やむを得ない欠席（欠席届対象）の場合は、補講を実施し、レポートの提出を求める。

【実務経験】

向谷地生良（精神保健福祉士）、橋本菊次郎（精神保健福祉士）、奥田かおり（ソーシャルワーカー）、鈴木和（精神保健福祉士）

【実務経験を活かした教育内容】

精神保健福祉士、ソーシャルワーカーとしての実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。